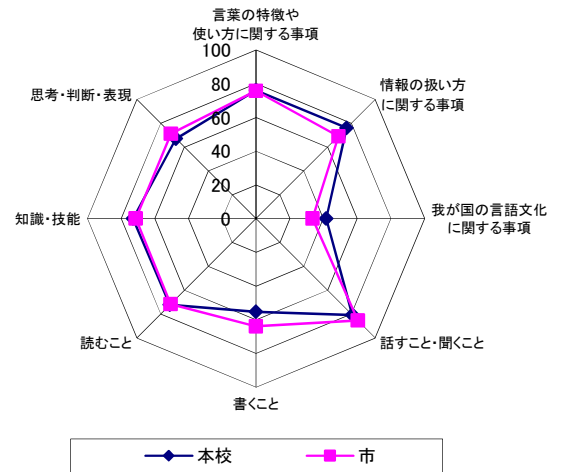


宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.1	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	76.0	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	41.6	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	80.8	85.5	86.5
	書くこと	55.2	63.9	65.8
	読むこと	72.3	71.6	69.5
	観点別	知識・技能	72.9	71.3
思考・判断・表現		67.1	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

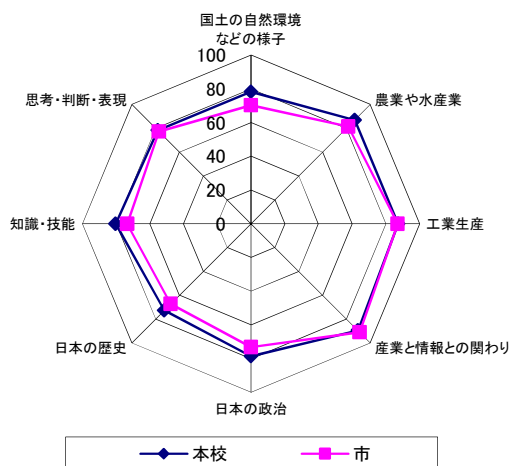
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○この領域の平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○漢字の読み書きについては、特に第6学年に配当されている漢字がよく身に付いている。特に読みは3問中2問の正答率が99%を超えた。 ●基礎は身に付いている一方、活用ができていないところから課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習や授業でミニテストを行う。また、前学年に扱った漢字や語句についても、繰り返し指導を行うことで、知識の定着を図る。 ・国語での学びにこだわらず、各教科の学習に出てくる語句なども授業内で取り上げ、熟語について意識をもてるようにする。
情報の扱い方に関する事項	○この領域の平均正答率は、市の平均を6.9ポイント上回っている。	・説明文や資料の的確な読み取りを学年の発達の段階に応じて丁寧に行っていくとともに、読み取ったことを簡潔にまとめる活動を繰り返していく。
我が国の言語文化に関する事項	○この領域の平均正答率は、市の平均を12.1ポイント上回っている。 ●和語・漢語・外来語に関する問題は、市の平均より8.1ポイント高かったが、平均正答率が41.6%と理解が不十分である。	・引き続き語句の由来に関する単元では、より丁寧な指導を行っていく。和語・漢語・外来語にまつわるワークシートやICTを活用することで、知識の定着を図る。
話すこと・聞くこと	●この領域の平均正答率は、市の平均を4.7ポイント下回っている。話の内容を捉える問題は、平均正答率が96.7%と高いものの、意図に応じて話の内容を捉えているかを問う問題は、平均正答率60.8%であり、市の平均を9.0ポイント下回った。	・話の内容を整理するなど、相手が伝えたいことを考えながら聞くことを引き続き指導していく。 ・国語や学級活動を中心に話し合い活動を行い、学んだことを活用できるようにする。
書くこと	●この領域の平均正答率は、市の平均を8.7ポイント下回っている。 ●自分の意見とその理由を明確にして書く問題では、正答率は76.0%であり、全国や市の平均を下回っている。 ●予想される反論とそれに対する意見を書く問題の正答率は34.4%であり、市の平均を16.8%下回っており課題が見られる。	・教科を問わず、自分の考えを書く活動を設け、書き方の指導を行う。その際、条件を踏まえること、構成を考えて書くことなどを丁寧に指導していく。また、報告文を書く際には、目的や意図に応じた簡潔な書き方を意識させるとともに、友達同士で書いたものを見直すなどしてよりよい表現になるよう考えさせる。
読むこと	○この領域の平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○物語の読み取りに関する問題は、正答率が7割～9割であり、描写をもとに内容や心情を捉えることができていた。 ●説明文の読み取りに関する問題は、正答率が5割～7割であり、情報と情報の関係を理解することに課題がある。	・説明文の学習では、指示語の内容や中心文・中心語句などを的確に捉える学習を積み重ねていき、情報と情報の関係を読み取る学習につなげていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	78.2	70.3	66.4
	農業や水産業	86.9	81.6	75.3
	工業生産	87.2	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	89.6	91.0	81.3
	日本の政治	78.6	73.2	75.3
	日本の歴史	72.7	67.4	68.5
観点別	知識・技能	80.3	73.5	72.5
	思考・判断・表現	78.2	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

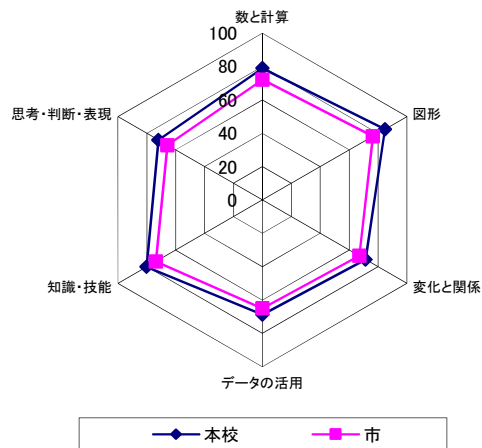
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○この領域の正答率は、市の平均を7.9ポイント上回っている。 ○すべての設問において、市の正答率を5ポイント上回っており、特に日本周辺の海洋名に関する設問では、91.2%と高い正答率であった。	・国名や海洋などの名称や位置関係、国内の気候の特徴など、地理的な基礎知識が定着できるように、今後も、地図帳や地球儀、1人1台端末を生かして調べる活動を取り入れていく。
農業や水産業	○この領域の正答率は、市の平均を5.3ポイント上回っている。 ○米の品種改良についての資料を読み取り表現する設問では、市の平均を12.1ポイント上回っている。	・資料を正確に読み取れるようにグラフの変化のポイントに注目させたり、自分の言葉でまとめたりすることで、日本の農業や水産業について理解が深まるように指導していく。
工業生産	○この領域の正答率は、市の平均を0.2ポイント上回っている。 ○自動車の製造工程に関する設問では、正答率が90.4%でよく理解ができています。	・日本と海外の輸出や輸入の関係など、教科書や資料集のグラフの読み取りに関する活動を、今後も丁寧におこなっていく。
産業と情報との関わり	●この領域の正答率は、市の平均を1.4ポイント下回っている。 ●情報の発信と受信の注意点に関する設問では、85.6%であるものの市の平均を3.4ポイント下回っている。	・他教科などと関連させながら、情報が身近で使われていることや情報を扱う際の注意点についての理解を深められるように指導を進めていく。
日本の政治	○この領域の正答率は、市の平均を5.4ポイント上回っている。 ○日本国憲法に関する設問では、市の平均を10.0ポイント上回っており91.2%と高い正答率であった。 ●租税の役割に関する設問では、正答率が58.4%と課題が見られる。	・学習活動の中で、資料から読み取ったことをお互いに交流する場面を設け、資料の情報を正確に使う説明する活動を増やすなど、今後も積極的に資料に触れていけるよう指導を進めていく。 ・日常の場面と政治、税金を結び付けられよう、身近なものとしてイメージすることができる資料や図を用いて考える機会を作っていく。
日本の歴史	○この領域の正答率は、市の平均を5.3ポイント上回っている。 ○すべての設問において、市の平均を上回っている。 ●弥生時代に関する設問では、市の平均を0.4ポイント上回っているものの正答率は47.2%と課題が見られる。	・歴史的な事象に対して考えたことを自分の言葉で記述したり、ノートにキーワードをまとめたりする機会を増やしていくことで、歴史に関する知識を結び付けて理解し、歴史の流れや背景を捉えられる活動を進めていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.9	72.1	74.6
	図形	84.8	76.5	76.1
	変化と関係	71.4	67.1	59.7
	データの活用	68.7	65.0	64.5
観点別	知識・技能	80.2	73.8	74.7
	思考・判断・表現	72.0	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○この領域の正答率は、市の平均を6.8ポイント上回っている。特に、分数の足し算の問題では、市の平均を8.2ポイント上回った。</p> <p>●比較量、基準量が分数の場合に何倍かを求める問題のみ、正答率が市の平均を1.8ポイント下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・倍を求める問題は3年生から学習し、整数、小数、分数と広がっていく。各学年でこの問題を学習する際、問題場面の数量関係を十分に理解できるようにするため、図や数直線等を用いたり、自分の考えを説明する活動を設けたりする。特に、何が基準量かを文章から読み取れるような指導を丁寧に行う。</p>
図形	<p>○この領域の正答率は、市の平均を8.3ポイント上回っている。特に、三角形の外角を求める問題では、市の平均を14.1ポイント上回った。</p> <p>●線対称である正八角形において、指定された対角線を対象の軸としたときに、決められた点に対応する点を求める問題では、市の平均を13.6ポイント上回っているものの、64.7%と正答率は低かった。</p>	<p>・図形領域の学習においては、算数的な語句の意味をしっかりとおさえるようにする。また、作図や操作などの活動を取り入れ、図形をイメージできるようにしていくことで、理解を深められるように指導をしていく。</p>
変化と関係	<p>○この領域の正答率は、市の平均を4.3ポイント上回っている。特に、読書量の平均を求める問題では、82.4%と市の平均を11.4ポイント上回った。</p> <p>●電車の車両数と人数から、どの路線が最も混んでいるかを求める問題の正答率は67.2%であり、市の平均を2.2ポイント下回った。</p>	<p>・「単量あたりの大きさ」、「速さ」、「割合」の問題は、引き続き数直線や図などを用いて考え、自分で説明する活動を増やしながら定着を図っていく。その際、問題の中に出てくる数量の関係を正確に捉えられるよう繰り返し丁寧に指導を行う。</p>
データの活用	<p>○この領域の正答率は、市の平均を3.7ポイント上回っている。特に、ドットプロットをもとに度数分布表に整理する問題では、86.6%と正答率が高かった。</p> <p>●平均値とヒストグラムを関係付けて読み、読み取ったことを説明する問題の正答率は42.0%で課題がある。</p>	<p>・グラフやデータから正しいものを選ぶことや、必要な情報を読み取ることは概ねできているが、複数のデータを関連付けて読み取ったことを言語化できるよう、友達に伝え合ったり文章で説明したりできるよう継続して指導していく。</p>

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.9	72.1	74.6
	図形	84.8	76.5	76.1
	変化と関係	71.4	67.1	59.7
	データの活用	68.7	65.0	64.5
観点別	知識・技能	80.2	73.8	74.7
	思考・判断・表現	72.0	65.8	61.9

4

2

5

6

0

0

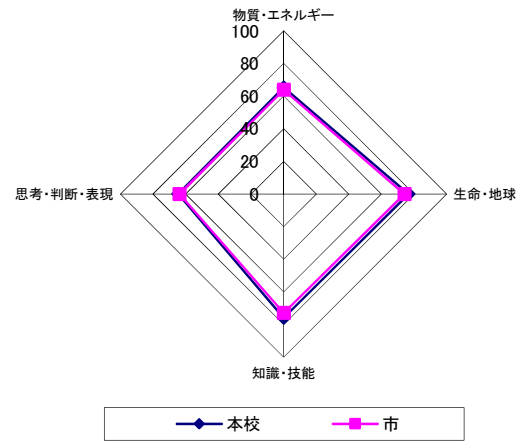
番号	表示タイトル	本校	市	参考値
1	数と計算	78.9	72.1	74.6
	図形	84.8	76.5	76.1
	変化と関係	71.4	67.1	59.7
	データの活用	68.7	65.0	64.5
2	知識・技能	80.2	73.8	74.7
	思考・判断・表現	72.0	65.8	61.9

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.3	63.8	61.6
	生命・地球	76.6	74.1	73.3
観点別	知識・技能	75.8	73.0	71.3
	思考・判断・表現	64.6	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○この領域の平均正答率は、市の平均を1.5ポイント上回っている。</p> <p>○「物のとけ方」の実験における条件制御の誤りを指摘する問題の正答率は68.8%であり、市の平均を5.7ポイント上回っている。</p> <p>●「水溶液の性質」の塩酸と炭酸水を見分ける実験について構想し説明する問題の正答率は42.4%で、市の平均を8.9ポイント下回っている。</p>	<p>・学習内容を、生活の場面で生かしたり、当てはまることを学習の中に盛り込みながら授業を進めたりすることで、科学的な事象を身近に捉えることができ、知識の定着が図れたと考えられる。今後も重点的に指導を継続していく。</p> <p>・自分の考えを分かりやすく書いて説明する問題に関しては全ての教科に共通する課題になっているので、今後もノートやワークシートに自分の考えを簡潔に書く機会を増やしていく。</p>
生命・地球	<p>○この領域の平均正答率は、市の平均を2.5ポイント上回っている。</p> <p>○「生物とかんきょう」の動物の食べ物のもとをたどると、最終的に植物にたどり着く問題の正答率は76.8%であり、市の平均を5.7ポイント上回っている。</p> <p>●「動物のつくりとはたらき」の脈拍について理解する問題の正答率は60.8%であり、市の平均を0.4ポイント下回っている。</p>	<p>・生命や地球の環境など、想像が難しい分野に関しては、映像資料を活用し、丁寧に授業を行うことで、知識の定着を図っていく。</p> <p>・課題解決のための方策を考える話し合いを継続してきたことで、目的や条件を考える力が少しずつ高まったと考えられる。今後も意欲的に活動ができるよう、発問等を工夫していきたい。</p>

宇都宮市立豊郷中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本を確かに定着させ、学習の成果を他の単元や他教科等における見方・考え方に関連付けながら課題解決に取り組めるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことや考えたことを文章にしたり、資料を使って発表したりする機会を設け、思考力や表現力を高める。 個の考えを表現する活動の時間を十分に確保する。 資料をもとに分かることを考察し、書いたり話し合ったりする活動を学年の発達の段階に応じて実施する。 	4教科全てにおいて、知識・技能は市の平均を上回っており、基礎・基本の定着が図られていると考える。しかし、国語の思考・判断・表現においては、市の平均を4.2ポイント下回っている。また、記述問題での無回答が8～16%であることも課題である。
「書く」「話す」活動を意図的かつ継続的に取り入れ、自分の考えを言語化し、他者と意見を交わす中で、思考を深め、主体的に表現する力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 根拠や理由を明らかにし、順序だてて端的に話したり書いたりする指導を行っている。 授業以外の日常活動や、家庭学習等でも、自分の考えを表現する活動の工夫を行っている。 	「話すこと」においては、市の平均と同程度であり、話の内容を捉えたり、意図に応じて質問を工夫したりする力が定着していると考えられる。しかし、「書くこと」においては、無回答が20%程度あり、書くことへの苦手意識が強いことが分かる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

書くことへの苦手意識が顕著なため、今後はどの教科においても短文記述の機会を増やし、自分の考えを言語化する「書く習慣」の定着を図りたい。完璧な文章を求める前に、まずは一行書けたことを認め合うなど、安心感をもって「書ける」ようにする。具体的には、来年度も「書くことキャンペーン」を継続し、低学年からのスモールステップでの指導を行い、自信を持って表現できる児童の育成に組織的に取り組む。また、資料から考察したことを書いたり話し合ったりする活動を発達の段階に応じて展開したり、調べたことや考えたことを文章化し資料を用いて発表したりする機会を意図的に設定することでアウトプットの質を向上させたいと考える。